

## マレーシア研修報告

吉村輝彦（国際福祉開発学部 国際福祉開発学科）

2009年2月22日から3月9日の期間、マレーシアのペナンにて、日本福祉大学の提携校であるマレーシア科学大学（Universiti Sains Malaysia : USM）を受け入れ先として、マレーシア研修が実施された。11名の学生（男性3名、女性8名）が参加し、様々な活動が行われた。そんな中から、ここでは、特に印象に残ったことについて報告する。

この研修のテーマは、「多文化共生社会のマレーシアに見る地域社会と経済開発」で、研修では、多民族であり、多様な宗教的文化的背景を持った人々が共生するマレーシアの社会がどのようなものであるのかを、実際に見て、体験し、学ぶところに主眼がある。実際に、講義や現地視察を通じた学びとともに、日本や日本福祉大学に関する発表、USM学生との様々な交流活動や社会問題に関する意見交換、文化交流におけるパフォーマンス、そして、研修を通じて学んだことの発表などが行われた。USM学生との交流や発表は英語で行われ、自分自身の英語でのコミュニケーション力も問われることになった。

### 日本福祉大学の学生による英語のプレゼンテーション（2月25日）



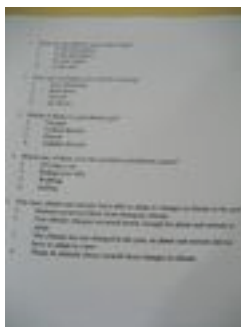
この日の午前には、日本福祉大学の学生のプレゼンテーションが行われた。日本の地理、文化、四季、正月、宗教などについて話し、USMの学生らと質疑応答が行われた。その後日本福祉大学に関するプレゼンテーションも行った。質疑応答の時間がちょっとしたチャレンジな時間だった。英語で、**one way presentation**はできても、**interactive communication**にはなかなかうまく繋がらない。考える前に、まずは話すことが大事である。また、表面的な知識ではなくて、日頃から教養的なことは身につけておかないと、また、社会問題に対して自分なりに考えておかないと、質問に戸惑ってしまい、恥ずかしい思いをしてしまう。日本人に対して、**don't be shy**とよく言われるが、開き直って、もっと大胆になって欲しい。変わるのは、私たち。大学は、きっかけを作ることができても、チャンスをつかむのはみなさんである。

### ソニー・マレーシア訪問（2月25日）



この日の午後は、ソニー・マレーシアを訪問した。主にオーディオ系を扱った工場であるが、工場見学は貴重な機会である。工場内は、improvement や kaizen が強調されていた。こういうところでは質問力を問われるが、未曾有の経済危機に対する対応や給与について学生が聞いたのは、日本語であったけれど、よかったと思う。こうした見学は、学生にとっては、興味があったり、興味がなかったりするかもしれないが、何でも見てやろう精神で、何かを感じ取って欲しいし、これをきっかけに考えをめぐらして欲しい。

### 地球温暖化に関するワークショップ (2月27日)



この日の午前は、地球温暖化 (global warming) をテーマにした、USMの学生と日本福祉大学の学生との間での討論を含めたワークショップである。最初に、ファシリテーターのUSMのNik先生から簡単な環境問題に関するテストがあった。学生に、問題を発音させながら、答えてもらう形式で行われた。その後、環境問題に関して、USMの学生が発表、日本福祉大学の学生の発表、続いて、USMの学生からの質問と応答があり、さらに、日本福祉大学の学生からの質問と応答があった。次に、USMの学生と日本福祉大学の学生が、4つのグループに分かれてのsmall group discussionが行われた。テーマは、「how to create public awareness on global warming」である。30分程度の討議の後に、グループ発表があり、最後に、Nik先生がまとめをしてくれた。

議論の内容としては、日本福祉大学の学生は、みんなで持っている知識を動員してなんとか進めていた印象であった。マレーシアとの取り組みの違いもいくつか出てきた。例えば、分別収集、エアコンの温度設定、自転車利用、風力発電や原子力発電。また、大学の取り組みも互いに紹介された。さらに、法による強化も強調されていた。いくつかちょっと怪しいのもあったような気がしたが、付け焼き刃ではなく、日頃からどれからいろいろ

なことを考えているかが問われてくる。

前半のセッションでは、日本語のやりとり（通訳を介して英語に）もあったが、グループ討議は、英語のため、苦勞しながら取り組んでいた。これが、**one way presentation**から**interactive discussion**へと転換していくことにつながっていく。USMの学生を交えてのワークショップであったが、こういう討議の訓練はすごく大事だし、いい機会だったと思う。こういうことの積み重ねが、さらなる学びや気づきにつながっていくことを期待している。

### 文化交流イベントでのパフォーマンス (2月28日)



この日の夜は、文化パフォーマンスのイベントがあった。会場は500人規模のホールだが、立ち見などもいてすごい人数であった。パフォーマンスが始まったのは21時頃から。マレーシア、チリ、ヨルダン、インド、インドネシア、中国、日本、タイ、マレーシア、4大陸バンドという順番で、さすがに「国際的」である。それぞれの国の特色の歌あり、踊りあり、タイからは、ムエタイが披露された。中国の太鼓の演奏の後に、「日本、日本福祉大学から」とアナウンスされた。最初は、「シオリ」のお手玉など、続いて、「ヒロキ」の駒が披露された。いずれも観客から声援や拍手が多くあった。その後、みんなでヨサコイを踊る。とてもよかった。USMの人も、ホストファミリーもよかったと言っていた。こういう場面でパフォーマンスする機会はないと思うが、こういうイベントに参加できたことはいい機会だった。それぞれの準備とかは大変だったと思うが、いい思い出になったと思う。終わった後は、みんないい笑顔でした。

### Jarejak Island での学生交流 (3月3日)



この日は、一日、jarejak islandでの学生交流であった。バディスチューデントや日本語

クラブの学生など大所帯だった。午前は、自然の中の遊具をエンジョイする。昼食後は、ウォールクライミング、バレーボール、ビーチでのゲームを楽しんだようだ。男子学生は、プールで泳いだりしていた。学生は、USMの学生といっぱい交流しているように見えた。

### まとめのプレゼンテーション (3月6日)



この日は、学生による最後の英語でのプレゼンテーションである。パワーポイントを用い、原稿を使いながら発表を行った。ここ数日準備もしてきたこともあって、そつなく発表を行っているように見えた。時間は30分強位だったか。発表内容は、マレーシアの文化、宗教、生活、日本との比較などで、提案的な内容も含まれていた。「**descriptive**であって、**analytical**ではない」「内容的にはもう少し相対的な視点を持つことが必要」「ステレオタイプの論調には組みしないことがある」とか思いながらも、学生は、マレーシアに来て、見て、感じ、学んだことは少なくないように感じた。この発表に対して、USMの担当者から全般的なコメントや補足が行われた。その後の質疑応答セッションはなかなかうまく進まなかった。プレゼンテーションからコミュニケーションやディスカッションへの展開は今後の課題になるだろう。英語でのコミュニケーションの重要性は痛烈に感じたようだし、日本のことをもっと学ぶことの意義も感じていた。学生の一人が**challenging status quo**と言っていたが、今後は、ここでの学びを踏まえた、まさに有言実行だと思う。

流れで、**closing ceremony**に、**certificate**をもらい、学生もほっと一息したようだ。会場には、ホストファミリーも来ていて、最後の時間を楽しんだ。